

## 令和7年度大阪府ガンカモ類等鳥類生息調査の結果について

ガンカモ類生息調査（全国ガンカモ一斉調査）は、ガン、カモ、ハクチョウ類の冬期生息状況の把握を目的として、1970年（昭和45年）から毎年1月に実施されています。環境省の呼びかけで全国の都道府県が一斉に実施するもので、今回が57回目の調査となります。今回、大阪府の調査では、カモ類が33,599羽観察されましたが、ガン類・ハクチョウ類は観察されませんでした。

また、カワウ及びオオバンが増減傾向を把握するため、調査の際、これらの鳥の観察も行いました。

### 【大阪府における調査の概要】

- 1 調査年月日 令和8年1月4日～1月18日
- 2 調査地 443地点（休止地点を除く全対象地点）  
ガンカモ類が生息すると予測される府内の池沼、河川、  
海岸等
- 3 調査員 延べ672名  
日本野鳥の会大阪支部会員等
- 4 調査方法 各調査地において種別の個体数を目視によりカウント  
双眼鏡、望遠鏡、カメラ、カウンター等を使用

## 5 調査結果

### (1) カモ類

カモ類は、全対象地点のうち366地点で23種33,599羽が観察されました。総観察数は昨年度から1,210羽(約3%)の減少となりました。〔図1〕。

観察数を調査地別にみると、淀川(府境～河口)、神崎川、北港、堺第2区人工干潟周辺、平林貯木場の順に多く観察されました〔表1〕。

種別の観察数では、ホシハジロ、ヒドリガモ、キンクロハジロ、ハシビロガモ、カルガモ、コガモ、マガモ、スズガモ、オカヨシガモの順に多く観察されました〔図2〕。種別観察数の近年の傾向については〔表2、図3、図4〕にまとめています。

また、環境省が【絶滅の危険が増大している種】(絶滅危惧Ⅱ類)として指定しているツクシガモおよびトモエガモが観察され、【評価するだけの情報が不足している種】(情報不足)として指定しているオシドリが観察されました。同じく情報不足とされ、昨年まで観察されていたアカハジロは、今年は観察できませんでした。

なお、環境省は令和8年3月にキンクロハジロを新たに絶滅危惧Ⅱ類に指定しましたが、大阪府内では安定して相当数が観察されています。

ツクシガモは41年連続、トモエガモは23年連続、オシドリは調査開始以来57年連続の観察です。

- ・ ツクシガモは、ヨーロッパやユーラシア大陸中央部に生息し、冬期には東アジアなどへ渡る大型のカモです。日本では、主に九州北部の干潟などに飛来し、近年大阪においても、これらの地域に次いで観察数が多くなっています。
- ・ トモエガモは、冬鳥として本州以南の日本海側に多く渡来し、太平洋側では少なく、年によっては何ヵ所かで数百羽以上の群れが見られます。湖沼、池、河川などに生息しています。
- ・ オシドリは、主に本州中部地方以北で繁殖し、冬は西日本で越冬するものが多いことが知られています。

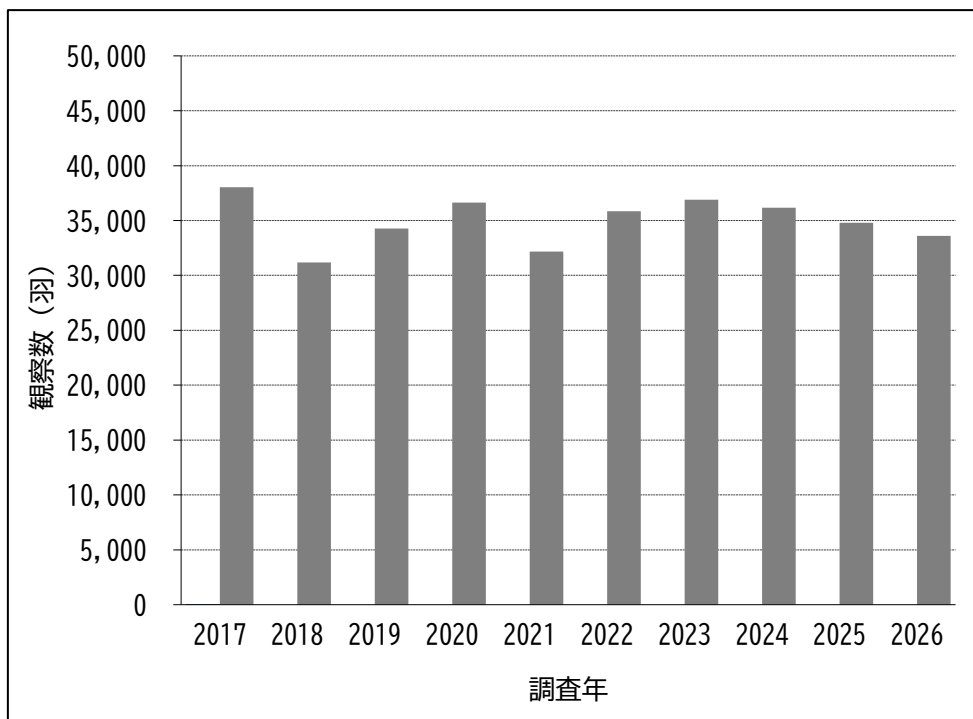


図1 カモ類の観察数の推移

表1 カモ類の調査地別観察数

調査地点・地域	観察数(羽)
淀川全域	7,271
神崎川	2,038
北港	1,900
堺第2区人工干潟周辺	1,755
平林貯木場	937
その他	19,808
合計	33,599

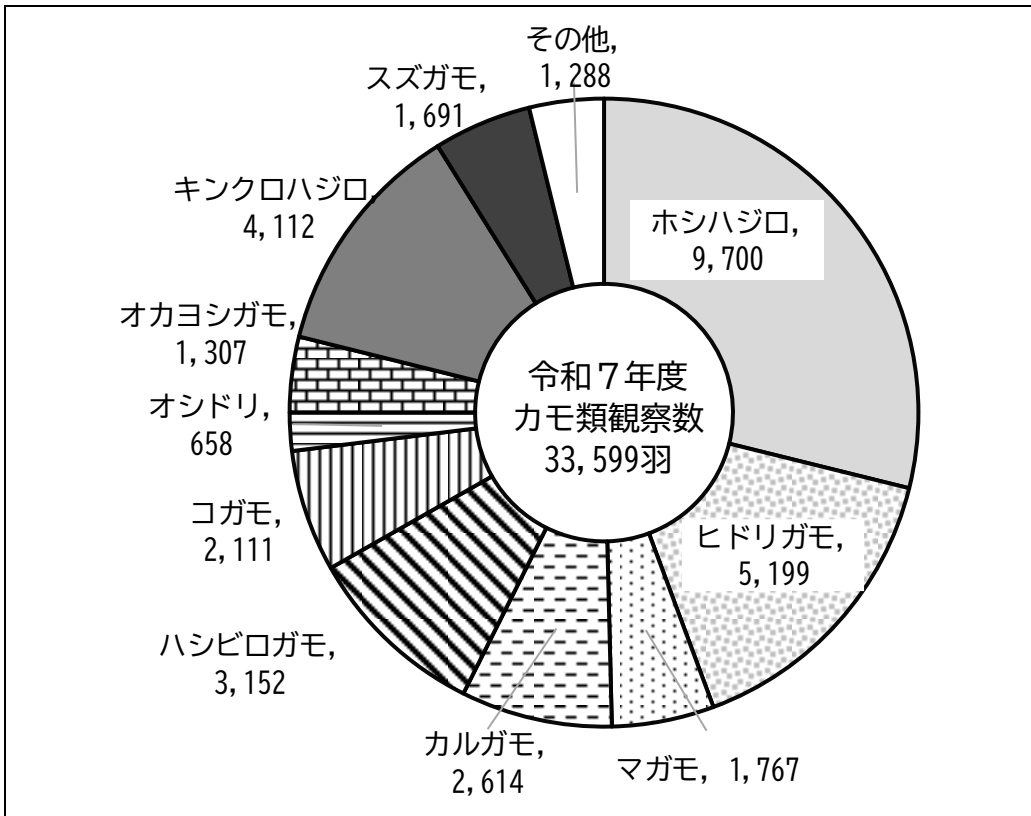


図2 カモ類観察数の種別内訳

表2 カモ類の観察数の近年の傾向

種名	傾向	備考
ホシハジロ	減少	昨年に続き減少。年ごとの変動が大きい。長期的には急速な減少傾向が続いている。
ヒドリガモ	減少	2023年以降減少。長期的に減少の傾向がみられる。
マガモ	安定	昨年に続き今年も減少。長期的にみると横ばい。
カルガモ	安定	昨年より増加。長期的には緩やかな増加傾向。
ハシビロガモ	安定	昨年に続き増加。過去10年間では横ばい傾向。
コガモ	安定	2年間連続で減少。長期的には横ばい傾向。
オシドリ	安定	昨年とほぼ同数。長期的には横ばい傾向。
オカヨシガモ	増加	昨年とほぼ同数。長期的には漸増傾向。
キンクロハジロ	安定	昨年より約1,000羽増加した。年ごとの変動が大きい。
スズガモ	安定	昨年より約1,000羽減少した。年ごとの変動が大きい。

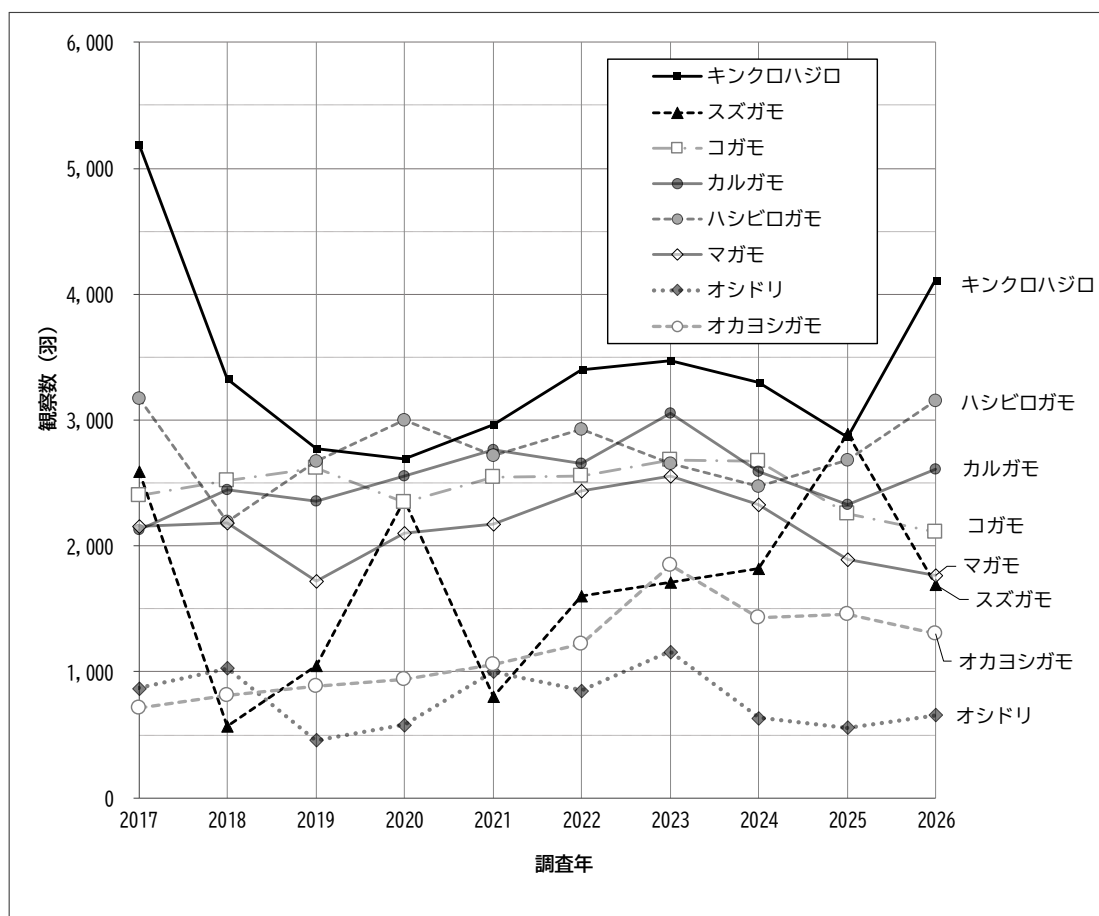


図3 主要カモ類(ホシハジロ、ヒドリガモを除く)の観察数の推移

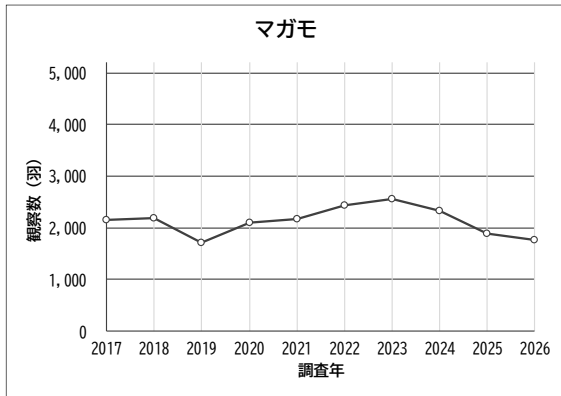
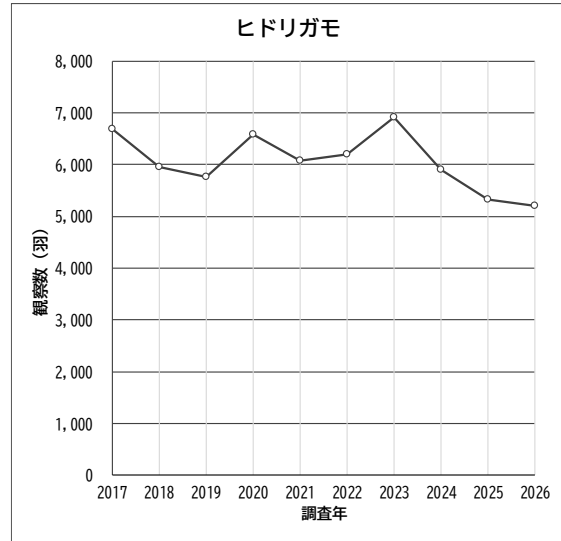
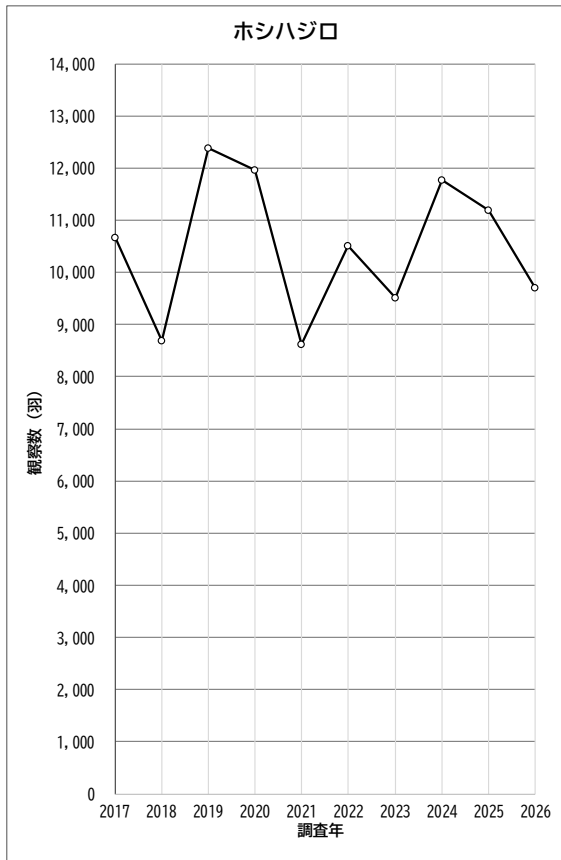


図 4 (1) 主要カモ類の観察数の推移 (種別グラフ)

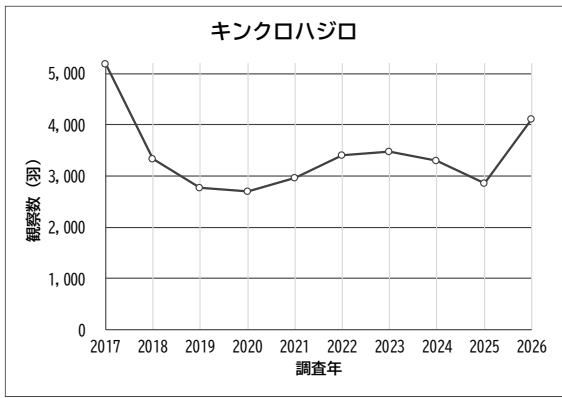
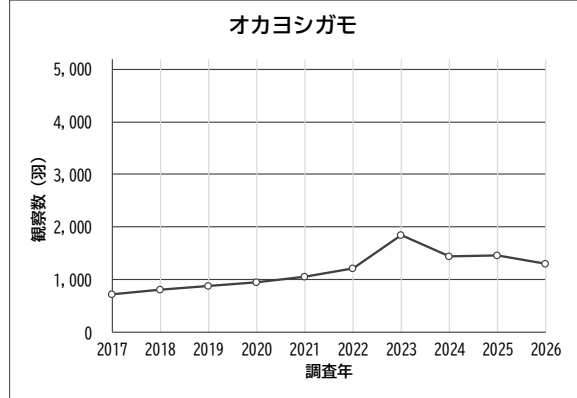
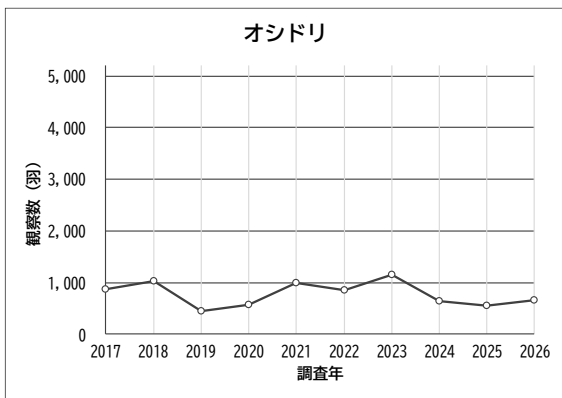
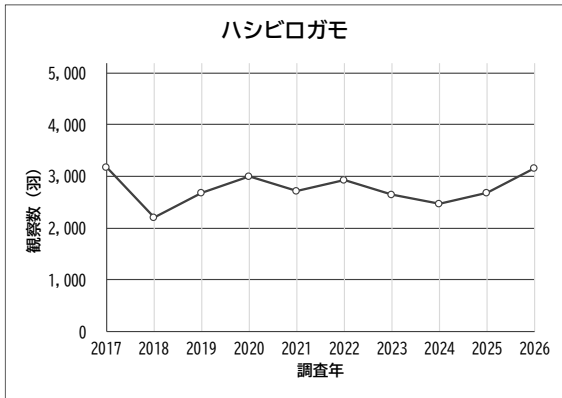


図 4 (2) 主要カモ類の観察数の推移 (種別グラフ)

(2) ハクチョウ類、ガン類

ガン類・ハクチョウ類は観察されませんでした。

## 6 カワウについて

カワウは、191地点で3,077羽が観察されました。

2018年以降、観察数は増減を繰り返しており、今回は昨年より約800羽減少しました。

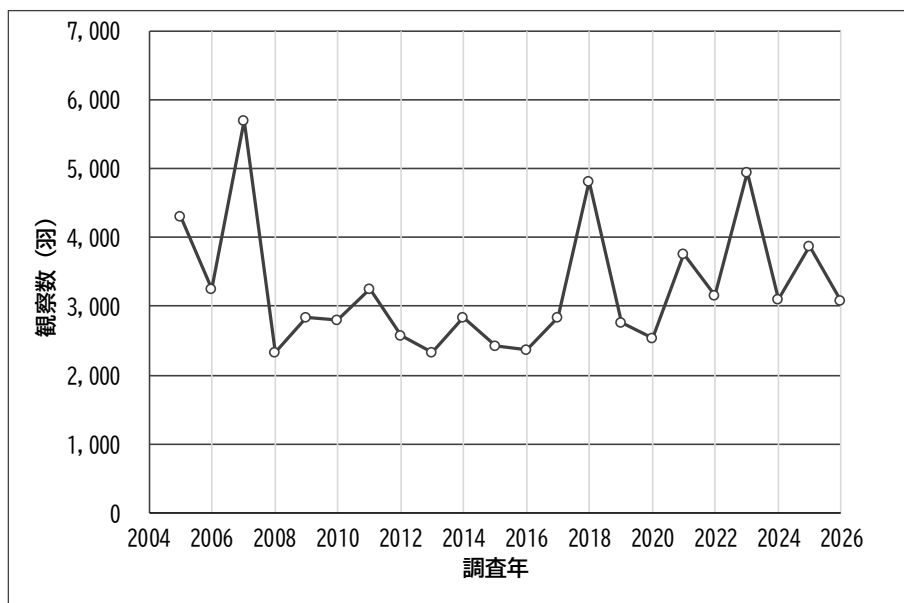


図5 カワウの観察数の推移

## 7 オオバンについて

今回は、206地点で3,721羽が観察されました。

2020年以降観察数は増加傾向にありましたが、一昨年大幅に減少し、その後3,000～4,000羽程度で推移しています。

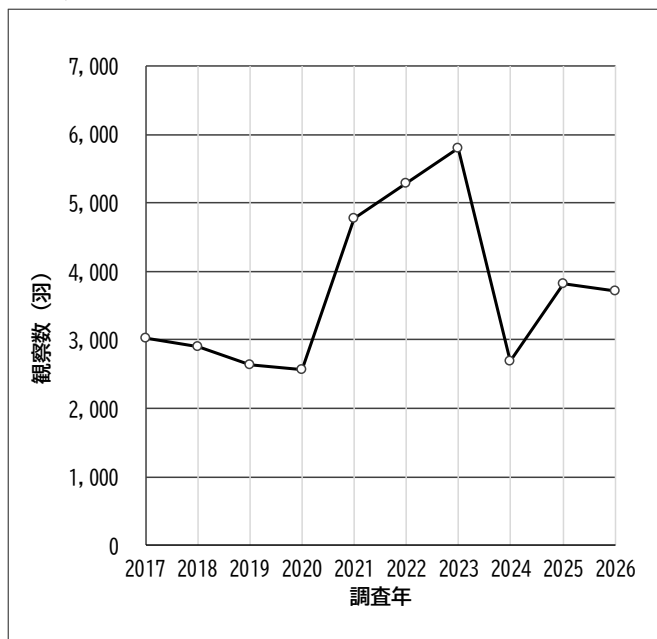


図6 オオバンの観察数の推移